
ラドウのメモ帳

ラドウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラドウのメモ帳

【Zマーク】

Z2292BA

【作者名】

ラドウ

【あらすじ】

これは書く暇がないけど思いついた小説のネタをお試し版として書きついづったメモ帳みたいなものです。

ここに書いてある話はいずれ書くかもしませんが、書かないかもしませんのであしからず……。

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生（1）（前書き）

とりあえず、5d'sです。お試しとして書いてみました。

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生（1）

俺の名前は難波ヨシツネ《なんばよしつね》。ぴっかうぴっかうの36歳や（すでに中年）

今俺はちょっとしたメダパー状態（混乱状態）に陥つとる。なぜかつて？それはな…。

いつのまにか赤ん坊になつてたんや…

……OK、とりあえずその受話器を下ろそか。別に頭がおかしくなつたわけやないから

「ばぶばぶぶー（落ち着け俺。クールになるんやクールに…）」

とつあえず、あまりに突飛な事態に俺は冷静にならうと努める

（ま、まずはいつなつた原因を探らな。なにか、なにかあるはずや
…）

俺は「うなつた原因を探りつつめったに使わない頭をフル回転（笑）
させてみる

・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・
・・・・・

え？ なにこれ。マジでなんの記憶もないんやけどー！？

と、とりあえず覚えてることを整理しようか

・名前は難波ヨシツネ

うん、これは覚える。

・年齢は36歳でカードゲーム（遊戯王OCG）と一次創作の小説を読むが好きな会社員。ちなみにドーテー

ほつとけ。

・他の記憶がない

(それ や ば ふ ざ)

— ! ! ! —

なんで? なんで自分がサクランボなこと覚えてんの? その他記憶がないんや――――――――――?

(それはわしが消したからの。)

・・・ん?

「ぱ、ぱ、ぱ、ぱー。ぱ、ぱ、ぱ、ぱ? (今誰かの声が。気のせいか?)」

俺は幻聴だと思つてきく(幻聴じゃないんじゃよそれが?)な、なんや? 一体誰や!?

俺は突然聞こえてきた爺言葉の人物の声に、警戒する。

(ふおふおふお、まあこのままではお主も話しづらかひつ。自己紹介の前に姿を見せるとするかの。)

「ぱ? (ぱ?)」

ピッカ――――ン――

突然目の前が光に包まれた…。

先程まで赤ん坊だった体は元に戻つとつた

「元に戻つとる…」

自分の体を確認してみる

およ~れつわと違つて喋れるや~?

俺が目を開けると、そこは白い色に塗りつけられたよつな空間だった

「ど~も…」

「ん…んん?」

「ふおふおふおふお、良く来たの坊主…」

「ん？」の声は？』

俺は立ちあがつた辺りを見回すが誰も見当たらぬ

「おかしいなあ…」

れつきの声は先程聞こえた老人の声だらう

しかしその老人はどこにもいない

いつたいどこいつたんや

俺は試しに呼びかけてみた

「おーい、誰かいなんか――――」

「うううじやべ――――！」

おつー声が聞こえた

急いで辺りを見回す。しかし…

「やつぱ、見当たらんやあ？」

その声の主はやつぱり見つからへん

四庫全書

俺はまた呼びかけようとして息を思いつきり吸い込み、

アーリーは、この事件を「おじさんじみ」が原因で起きたものと見なす。

! - くはああああああああああああああああ

思いつきり鳩尾にタックルをくらつた

な、なんやねんいつたい……

俺があまりの衝撃に腹を抱えて悶絶していると、頭の上から声が聞こえる

「ふん！わしを無視するから悪いのじゃ！当然の報いと心得よ。」

……なんか偉そうな声が聞こえてきた

俺が苦痛に顔を歪めながらひらを見ると、そこには……

褐色の幼女がいた……

俺はそこで意識を落とした。

意識を失った俺が再び目を覚ますと、そこには俺の顔を心配そうな顔で見ている先程の幼女の姿が

ああ・・・

「やつぱ幼女。」

俺の言葉を幼女が全力で否定する。といつか耳元で呟ぶなや。マジ耳キンキンするわーー！

二

「…せん誰せん？」

「わしはお議ちやんじやないわ！神様じやー！」

「そうか、神様か？」
すごいなー神様(笑)

それから、どうみても幼女だの、幼女じゃないだから神様だつていつてんだろうだの、だつたら証拠みせてみろだの、だつたらお前の恥ずかしい過去をばらすだの、記憶がないから確認できないだの、ドーテー（笑）だのそんなやりとりがあり、俺はこの幼女が神様だと、いうことを信じざらるおえなくなつた……。

……データのなにが悪いんや…………

「で、その神様（笑）がなんのよつや？」

「意地でも（笑）はとらなーのじゃなー

「ん、セヒくんはあさりめて

それに神様（笑）は疲れたよつた顔をし、「もうここわ」と話しき進めることにしたよつや。すまんな？」

「ふむ、ではまず自己紹介じゃな。わしの名前はテ・オドーラとう。一応神様をしておるよ。…あ、念のためにこいつがテオドラとこいつ名前ではないからの…」

「へ・トホダリって誰よ」

「いや、わしも知らんがなんかいわなければならぬ気がしての…。なんでじゅう？」

いや、俺は知らんよ

「呼びにへいから『ゾードリ』でええか？」

「わんでもいいぞ…」

なんでそんなに疲れどん？（君のせいじゃない？ b y 作者）

閑話休題

「で、その神様がなんのようなんや。」

「いや、お主は自分が赤ん坊になつてた理由が知りたかつたんじや

なかつたのかの?」

「… むおー。わしゃつた、忘れつとつたー。」

「… ふう、まつたく…。」

そない、呆れた顔しなくてもええやん。… 照れぬやう（笑）

「それでじや、なんで赤ん坊になつたのかといつて、実はお主、

転生したんじやよ…。」

転生か…。

「ふうん…。」

「ふうん… つて… それだけかの?」

いや、だつて

「赤ん坊になるなんて事態になんのせそれくらこやう？」

「一次創作を読むのが趣味らしかったからな。その辺の知識はの」ひ
とるわ。…なんでこんな知識がの」ひとるんや。

「あ、それわしがやつた。」

「なんでやねん。」

「なんでそないなことを？」

「前世の記憶を全て持つたままだと、未練を残して人生を楽しめな
い転生者もいたからの？余計な情報を忘れさせようとしたのじや。

ドーテーは必要な情報だったと申すか。

「それはおもしろかつたからいれてみたwww

「てめえッ……！」

初めてこの幼女に殺意が沸いた。

でもまあその程度のことでも腹を立ててもしゃーない。事情は理解し
た。

あ、そうだ。まだ聞かなきやならん」とがあったなあ。

「なあ、まだ聞かなきやならん」とがあったんやけどへ。」

「ん？ なんじや。」

首を傾げる幼女神。ツベーなんて破壊力やー。・

気持ちを落ち着かせるために俺は深呼吸を一つすると、アーラに尋ねた。

「結局俺はどんな世界に転生したんや？」

「あんまり叶は左手の手のひらを右手で握ると打つ。ビリヤード台でたよつやな。……でもえーけど古なこのコマクション。

「わづじゅな、忘れとつたわ。お主が転生する世界は、

これは転生者である俺と、シグナーたちの戦いを綴った物語である。

プロローグ『転生ってなんやねん…』お試し版 終わり

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生（1）（後書き）

神様の名前があれなのは、褐色幼女がテオドラしか思い浮かばなかつためあの名前にしました。他意はないです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2292ba/>

ラドウのメモ帳

2012年1月5日20時47分発行